

NOVELTY (5)

PN - JP2000185786 A 20000704  
 PD - 2000-07-04  
 PR - JP19980360868 19981218; JP19980289520 19981012  
 OPD - 1998-10-12  
 TI - STORING CASE FOR BEVERAGE BOTTLE  
 IN - UCHIGATA KENJI  
 PA - UCHIGATA KENJI  
 IC - B65D85/30 ; B65D5/50

DESCRIPTION

TI - Beverage bottle storage case used in large scale retail store, has coverage board with holes that are surrounded by perforations so that perforations are fragmented while pulling out bottle  
 PR - JP19980289520 19981012  
 PN - JP2000185786 A 20000704 DW200047 B65D85/30 005pp  
 PA - (UCHI-I) UCHIGATA K  
 IC - B65D5/50 ;B65D85/30  
 AB - JP2000185786 NOVELTY - Several holes (5) are provided in the coverage board (2) made of hard board, corresponding to the neck of beverage bottle (20). Perforations are provided surrounding the holes. The coverage board is fixed to casing (1) accommodating the bottles. When the bottles are drawn out from the casing, the perforations are fragmented.  
 - USE - For storing beverage bottles in commodity shelf of large scale retail stores.  
 - ADVANTAGE - Since perforations surrounding the hole is fragmented during pulling out of beverage bottle, fraudulent done in beverage and bottle is prevented.  
 - DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the isometric view of storage case.  
 - Casing 1  
 - Coverage board 2  
 - Holes 5  
 - Beverage bottle 20  
 - (Dwg 1/7)  
 OPD - 1998-10-12  
 AN - 2000-518592 [47]

PROBLEM

PN - JP2000185786 A 20000704  
 PD - 2000-07-04  
 AP - JP19980360868 19981218  
 IN - UCHIGATA KENJI  
 PA - UCHIGATA KENJI  
 TI - STORING CASE FOR BEVERAGE BOTTLE  
 AB - PROBLEM TO BE SOLVED To provide a storing case for storing a beverage bottle in which various kinds of bottles are prevented from being present in a mixed state at the channel of distribution or selling locations and further a playing trick against the beverage or bottles is prevented.

- SOLUTION: There are provided an outer box 1, a cardboard shielding plate 2 having a plurality of round holes 6 through which a neck part 21 of each of a plurality of beverage bottles 20 stored in the outer box can be inserted, and breaking portions 4, 8 formed around each of the round holes 6 of the shielding plate. The shielding plate 2 is fixed to the outer box 1 under a state in which their neck portions are being inserted through the round holes 6 after the beverage bottles are stored in the outer box 1. When the bottles are taken out of the storing case, the breaking portions 4, 8 are broken, resulting in that it can be easily acknowledged that the bottles are extracted out of the box even if the bottles are returned back to the storing case. Since the shielding plate 2 is made of cardboard, its cost is less expensive and the taking-out operation of the bottle from the storing case can be carried out approximately in the same manner as that of the prior art.

1 B65D85/30 ;B65D5/50

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-185786  
(P2000-185786A)

(43) 公開日 平成12年7月4日 (2000.7.4)

(54) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	7-コード (参考)
B 6 5 D 85/30		B 6 5 D 85/20	C B E 0 6 0
5/50	1 0 1	5/50	1 0 1 B B E 0 9 6

審査請求 未請求 請求項の数1 G L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-380608  
(22) 出願日 平成10年12月18日 (1998.12.18)  
(31) 優先権主張番号 特願平10-288720  
(32) 優先日 平成10年10月12日 (1998.10.12)  
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

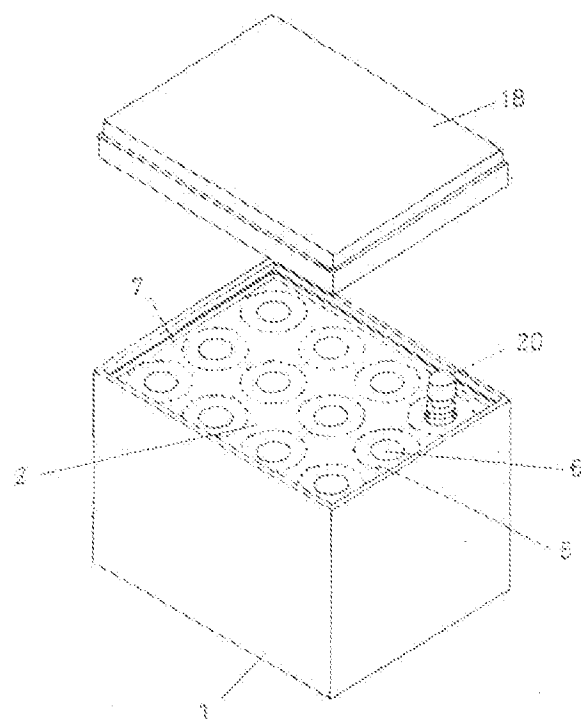
(71) 出願人 558135771  
内閣 総務省  
石川県河北郡七尾町秋沢へ7-3  
(72) 発明者 内閣 総務省  
石川県河北郡七尾町秋沢へ7-3  
(74) 代理人 100078073  
弁護士 西 孝雄  
Fターム (参考) 3E06G A003 B004 C016 C012 C017  
C018 C034 D015 E009 F014  
3E06G A003 B023 B001 D001 D009  
D020 E001X E001Y E002X  
F016 F017 F040 G012

(54) 【発明の名称】 飲料ボトルの収納ケース

(57) 【要約】

【課題】 飲料ボトルを収納する収納ケースに関し、漏れや販売の時点でボトルが混在したり、飲料やボトルに悪影響が与えられることを防止する手軽で安価な技術手段を講ずる。

【解決手段】 外箱1と、この外箱に収納された複数の飲料ボトル20の首部21を挿通可能な円孔6の複数個を設けた複紙製の遮蔽板2と、この遮蔽板の各円孔6の周囲に形成された破断部4、および前記遮蔽板2は外箱1に飲料ボトルを収納したあとそれらの首部を円孔6に挿通した状態で外箱1に固定されている。収納ケースからボトルを取り出したとき、破断部4、6が破断し、ボトルを戻しても抜き取られたことが容易に認識できる。遮蔽板2は複紙製なので、コストが低く、収納ケースからのボトルの取り出しも側面とほとんど変わらない作業で行うことができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 外箱(1)と、この外箱に収納された複数の飲料ボトル(20)の首部(21)を挿通可能な円孔(6)の縁部を設けた板状製の遮蔽板(2)と、この遮蔽板の各円孔(6)の周囲に形成された締結部(4、8)とを備え、遮蔽板(2)は外箱(1)に飲料ボトル(20)を収納したときとそれらの首部を円孔(6)に挿通した状態で外箱(1)に固定されており、飲料ボトル(20)を引き出したときに遮蔽板の締結部(4、8)が破断する、ことを特徴とする、飲料ボトルの収納ケース。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、PET（ポリエチレンテレフタレート）ボトルなどの飲料ボトルを収納する収納ケースに関するもので、複数のボトルを収納して搬送し、また大規模小売店などの商品棚に陳列するのに用いる収納ケースに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】飲料は缶やボトルに封入して販売される。そのボトルの搬送や展示を効率的に行うために、複数のボトルを収容する板状製ないし合成樹脂製の収納ケースが用いられている。コンビニエンスストアなどの小売店で飲料を商品棚に陳列するときは、複数本単位で販売するような小型のボトルは別として、通常、収納ケースから取り出した状態で陳列され販売されている。収納ケースが板状製であるときは、ボトルを取り出した後収納ケースは廃棄される。収納ケースが合成樹脂製であるときは、収納ケースはボトルのメーカーに送り返されて再使用されるのが一般的である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】販売店や商品棚に陳列された飲料ボトルは、誰でも取り出したり戻したりすることができ、従って商品棚に多種類の飲料ボトルが陳列されているような場合には、客が取り出したり戻したりする間に、飲料の種類が異なるボトルが混在することになる。また販売店の店員が目か届かないときは、一部の客の隠れて飲料の種類が取り替えられたり、賞味期限の過ぎた古い飲料が混入されたりするという事態が起こり得る。さらに悪だいたしとては、購入して再び持ち帰ったボトル内の飲料に薬物や毒物を混入して再び元の陳列棚に戻し置くという極めて悪質な悪戯がなされる。

【0004】コンビニエンスストア等における現在の飲料の販売体制では、上述したような行為が故意に行われたとき、その発見は極めて困難である。またボトル内の飲料に薬物や毒物を混入するという悪質な悪戯は、現在の飲料ボトルの流通体制ではその流通途中のどの時点でも行われることが可能で、たとえ薬物や毒物が混入された形跡のあるボトルを発見できたとしても、そのような行為が誰によって行われたのかを特定する

ことが極めて困難である。

【0005】そこでこの発明は、各種の飲料の入ったボトルが流通や販売の時点で混入したり、ボトル内の飲料やボトル自体に悪質な悪戯がされることを未然に防止するとともに、そのような事態が生じたときに速やかに発見することが可能な、手軽にかつ安価に実現できる技術手段を得ることを課題としている。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の飲料ボトルの収納ケースは、外箱(1)と、この外箱に収納された複数の飲料ボトル(20)の首部(21)を挿通可能な円孔(6)の縁部を設けた板状製の遮蔽板(2)と、この遮蔽板の各円孔(6)の周囲に形成された締結部(4、8)とを備え、遮蔽板(2)は外箱(1)に飲料ボトル(20)を収納したときとそれらの首部を円孔(6)に挿通した状態で外箱(1)に固定されており、飲料ボトル(20)を引き出したときに遮蔽板の締結部(4、8)が破断されることを特徴とするものである。

## 【0007】

【作用】飲料の種類が異なるボトルが混入したり、ボトル内の飲料に薬物や毒物が混入されたりするのを、1本1本のボトルを自由に取り出したり元に戻したりすることができるとしてある。ところが1本1本のボトルを取り出すと、最終段階での販売に支障が生ずる、たとえば複数本のボトルをケースに納めたまま最終消費者に販売しようとする、少量の飲料を購入したいという客の要望に応ずることなどでなくなる。また収納ケースにボトルを1本ずつ取り出すことができないようなロック装置を設けると、収納ケースがコスト高になり、ケースからボトルを取り出すときの作業も面倒になる。

【0008】これに対してこの発明の収納ケースは、収納ケースからボトルを取り出したとき、遮蔽板の円孔に設けられた締結部(4、8)が破断し、ボトルを収納ケース内に戻すことは可能であるが、遮蔽板(2)の締結部(4、8)が破断していることにより、収納されたボトルの1本1本についてボトルが一旦抜き取られたことがあるかどうか容易に認識できる。

【0009】遮蔽板(2)を使い捨ての板状製とすることにより、コストを低く抑えることができる。また収納ケースからのボトルの取り出しも、従来の収納ケースからのボトルの取り出しとほとんど変わらない作業で行うことができる。

【0010】遮蔽板(2)は、外箱が樹脂製であるときは樹脂製を外箱に接着し、また外箱が合成樹脂製であるときはクリップやピンによって外箱に固定するようにすれば、ボトルを外箱に収納した後、遮蔽板(2)を外箱に取り付ける作業も容易に可能であり、かつ合成樹脂製外箱の破損し使用にも問題を生じない。

【0011】従ってこの発明の収納ケースを用いることにより、店頭等あるいは販売店での陳列時に一旦ケースから抜き取られたボトルがケース内に戻られたとき、

それを直ちに判別することができ、客に注意を促すことができる」とともに、たとえば瓶通途中において抜き出されたときには一見して通蔽板の破断状態から分かるので、作業者が容易にこれを発見することができる。

【0012】

【発明の実施形態】以下図面に示す実施例を参照してこの発明の実施形態を説明する。図1ないし図2はこの発明の第1実施例を示したもので、紙紙(ウンホール)製の外箱に接着により通蔽板を取り付けた構造の例を示したものである。

【0013】外箱1は一般に用いられている構造のダンボール箱で、図1の例では外箱1内に12本のボトル20が収納されるようになっている。通蔽板3はダンボール板3と薄紙4とを2枚積層して形成した構造で、ダンボール板3にはボトル20の胴部が通過可能な開口5が設けられており、薄紙4には各開口5の中心に位置する部分に円孔6が設けられている。この円孔6はボトル20の首部21が通過可能な大きさである。この通蔽板は開口5を設けたダンボール板3に薄紙4を貼付して、各開口5の中央部に円孔6を設けることによって製作される。通蔽板3の両端は上方に90度折り曲げられており、この折曲げ部分7において外箱1の内面に貼着される。

【0014】通蔽板3は外箱1とは別々に製作し、外箱1にボトル20で収容した後、それらの首部21を円孔6に挿通するようにして上から被せ、接着剤または粘着テープで両端を外箱1の内面に貼着する。その後外箱1の蓋18を閉める。ボトル20はこの状態で流通し、最終販売店の商品棚には外箱の蓋18を切り取った状態で、外箱1に収容したまま陳列される。ボトルに入った飲料を購入しようとする客は、通蔽板3の上方に突出しているボトルの首を掴んで引き抜く。この引き抜き動作により、通蔽板の開口5部分にある薄紙4が破れるから、そのボトルを元に戻したとき、後からきた客はそのボトルが一旦外箱から抜き取られたものであることが容易に分かる。

【0015】図3、4は通蔽板の他の例を示したもので、この他の例の通蔽板3は1枚のダンボール板でできており、外箱に収納されるボトルの首部を挿通する円孔6が設けられている。そして各円孔6の周囲に放射状に数本のミシン目8又は切り欠きが設けられている。このような構造の通蔽板3をその円孔6にボトルの首部21を挿通した状態で外箱1に取り付けると、ボトル20を外箱から取り出したとき、ボトルの胴部によってミシン目8が切り開かれ、第1実施例と同様にボトルが抜き取られたことが一目で分かる。

【0016】図5ないし7はこの発明の収納ケースの第2実施例を示したもので、外箱を合成樹脂製の箱とした場合の一例を示したものである。外箱1は従来一般に用いられている形状の合成樹脂製の箱であるが、その上蓋より若干下がった部分に内側に突出する壁11が一体に形成

されており、これらの壁11に上下方向のピン孔12が複数個設けられている。この壁11の高さは外箱1に収容されるボトル20の首部21の状況のみにしてある。通蔽板3は図1または図3に示したものと同等な構造のものを採用するが、その両端には第1実施例の折曲部分7の代わりに外箱の前後壁11のピン孔位置に合わせてピン挿通孔13が設けられている。

【0017】この第2実施例のものでは合成樹脂製の外箱1にボトル20を収容した後、収容したボトルの首部21を通蔽板の円孔6に挿通した状態で外箱1の内側に通蔽板3を収め込み、先端に外側を向いた係止突起14とこの係止突起を縮退可能にするスリ割15とを設けた止ビン16をピン挿通孔13及びピン孔12を貫通するように挿通する。止ビン16の首部17と係止突起14との間の寸法は、外箱の穴片側の厚さと通蔽板3の厚さとの和に等しいようにしてあり、止ビン16を一端に挿通すると、ピン孔12を貫通したところで係止突起14が外側に突き、止ビン16を取り出すことができなくなる。通蔽板3は複数の止ビン16によって外箱1の内側に固定され、この状態で必要であれば外箱1に蓋18を取り付けて流通させる。

【0018】最終の販売店においては、ボトルを外箱1に収容したまま商品棚に陳列する。ボトル20に入れた飲料を購入しようとする客は、ボトル20を外箱1から引き出して購入する。このとき通蔽板の破断部すなわち前記薄紙4やミシン目8が破断するので一旦引き出したボトルを元に戻したときは後からきた客が容易にそのことを検知することとなる。

【0019】外箱1のボトルが全て取り出されたら、通蔽板3を破って取り去り、止ビン16は先端部を指で掴んで係止突起を縮退させて引き抜くことができるので、外箱1をボトルリブメーカーに送り戻せば、外箱1を再利用することができる。

【0020】通蔽板3はボトルを引き出す際にそのボトルに対応する首部周辺の破断部が破断されるので、再利用することはできない。しかしながらこの通蔽板はダンボール板などの再利用可能な安価な材料によって製作されているため、費用負担は軽微である。またこの通蔽板は予め破断部が設けられているので、外箱からボトルを1本ずつ取り出すときの障害となることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の斜視図

【図2】第1実施例の要部拡大斜視図

【図3】通蔽板の他の例を示す斜視図

【図4】ボトルを取り出すときの通蔽板を示す断面図

【図5】一部を切り欠いて示す第2実施例の平面図

【図6】図5のA部拡大図

【図7】通蔽板の別な構造を示す断面図

【符号の説明】

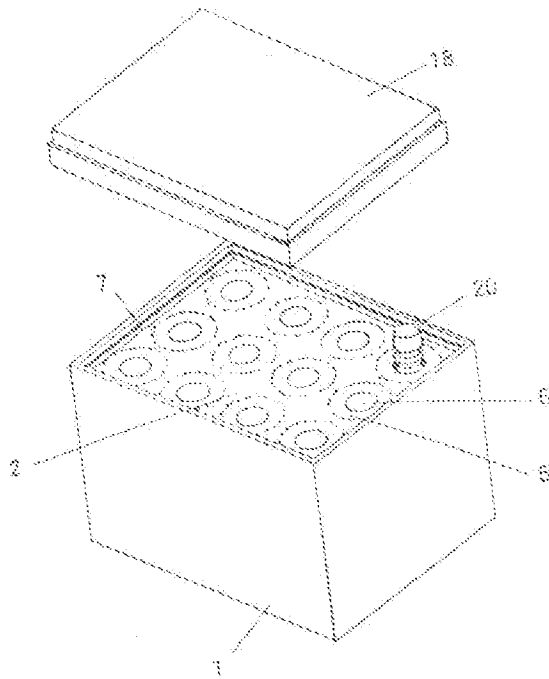
1 外箱

(4)

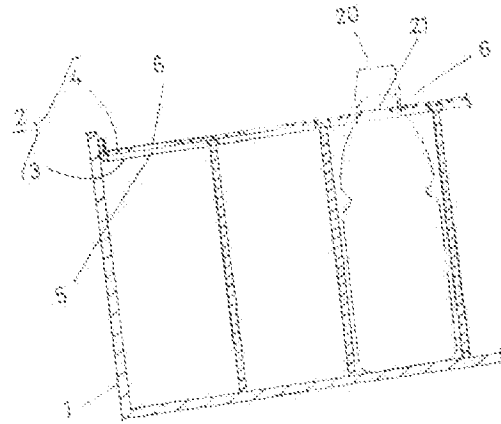
20 ボトル  
21 胴部

4 蓋板  
5 内孔  
6 エッジ部

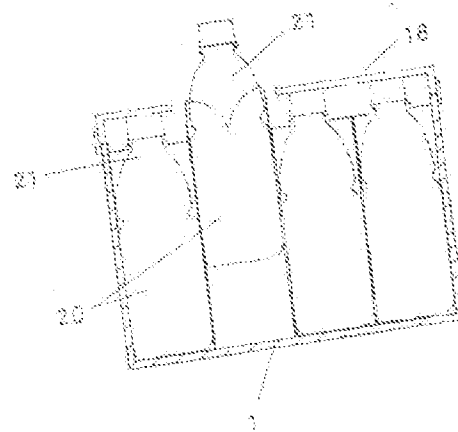
【図1】



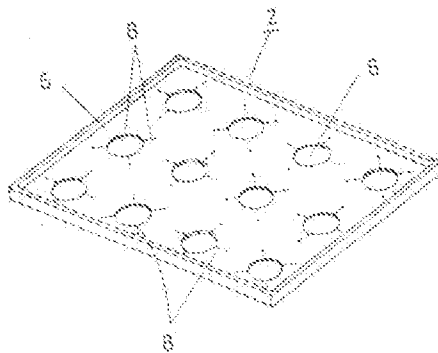
【図2】



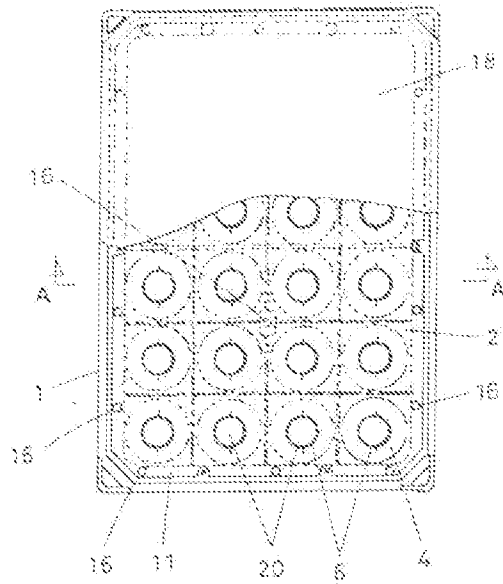
【図4】



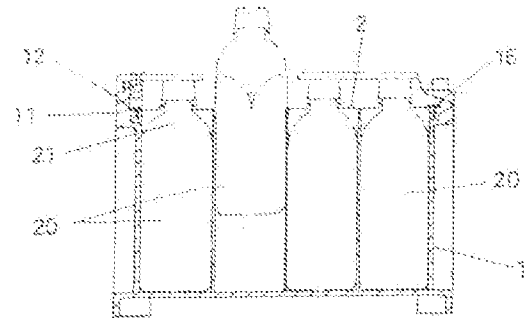
【図5】



【図5】



【図6】



【図7】

